

忘れない ～私の広島研修記～

十四山中学校 中島 維有

【被爆ピアノ】

広島研修1日目の夜に被爆ピアノ演奏会がありました。被爆したピアノが今もなお音色を奏でているのを体で感じました。当時のピアノは値段が高く、一つ一つ手作りで作られていたそうです。この被爆したピアノは「ピカドンピアノ」とも呼ばれ、今では平和や命の大切さを伝える活動の中で、世界中を旅しています。

【被爆者体験講話】

「科学の進歩は人々の幸福のために使ってほしい。」

これは講話をしてくださった瀧口さんの願いです。当時5歳だった瀧口さんは、爆心地から1.8km離れた場所にいました。母と妹と一緒に外にいましたが、B29のプロペラ音が聞こえ、瀧口さんは「帰ろう!」と叫びました。原爆投下後、母は大やけどをしましたが、息子(瀧口さん)がいないことに気がつき、すぐに探し始めました。体中傷だらけの母は、何度も声をかけながら、がれきを動かして家の中に埋まっていた息子を助けようとしてくれたそうです。75年間は草木は生えないだろうと言われていましたが、原爆の被害にあった土地から芽吹く草木を見て、人々は生きる勇気をもらうことができました。

【2日間の感想】

私はこの2日間を通して、「忘れないでほしい」という言葉を何度も耳にしました。被爆した方や語り手が少なくなっている状況の中で、私たちが歴史に刻まれたあの日のことを忘れずに、語り継いでいくことが平和を築いていくために重要なことだと思います。2日間という短い時間でしたが、ボランティアガイドの波多野さん、講話をしてくださった瀧口さんに感謝しています。被爆された方々の思いを無駄にせず、私たちが後世に語り継いでいきます。日本だけではなく、世界が平和になることを願っています。一歩でも明るい未来に近づけるように、自分たちができることを考え、行動していきたいです。



あの日の記憶

十四山中学校 伊藤 桃百風

【原爆被害】

爆発の瞬間、強烈な熱線と放射線が四方へ放射されると共に、周囲の空気が膨張し超高压の爆風となり、大きな被害をもたらされました。原爆被害の特質は、大量破壊・大量殺りくが瞬間的・無差別的に引き起こされることです。また、放射線による障害はいつ発症するか分からず、長期間被爆者を苦しめます。惨禍の中を乗り越えて生き延びた後も、人々は多くの困難と苦悩に直面しました。家族や友人を失った悲しみに耐え、心身に残る傷や病を抱えながら生きていかなければなりません。原爆による急性障害は1945年で落ち着いたように見えたように見えたが、その後も新しい障害が被害者に現れ始めるようになりました。これを後障害と言います。これは主に放射線の影響によるものだと考えられており、白血病や甲状腺がんなどが挙げられます。放射線被ばくや体内に取り込まれた放射性物質が年月を経て何を引き起こすのかは、被爆後70年以上が経過した今でも解明されていないそうです。また、病気以外にも社会的・精神的問題が被爆者を苦しめている問題が今もなお残っています。

【感想】

原爆投下の主な目的は、力を世界に見せつけるためだと言われています。でも、力を見せつけるために、原爆で何万人もの人の命が奪われてはいけずがたいと思います。命を奪う権利なんて誰にもありません。

現在、被爆者の平均年齢は80歳を超えています。今回の広島研修の中で多くの方々から貴重な話を聞くことができました。この平和学習を通して、「戦争とは何か」を一言で表すことができなくなりました。戦争はそれほど恐ろしいもので、これからは絶対にあってはならないものだと思うからです。

また、平和記念公園を訪れた際に、核兵器が地球上から姿を消すまで燃やし続けている「平和の灯」を見ることができました。これは反核悲願の象徴となっています。核兵器の廃絶と世界の恒久平和を希求し、一日でも早くこの「平和の灯」が消えることを願っています。



地域や社会と連携した教育

思いやりや感謝の心を持ち、誰にでも優しく温かく接することのできる児童や自分の考えに自信を持ち、主体的に他者に関わることのできる児童を育成するため、さまざまな方々の協力を得て、学校教育に取り組んでまいりました。

地域や社会の教育力を生かした学習



「JAの方から野菜について学んだよ!」



「町探検に出かけて色々なお店を見たよ!」



「金魚について勉強したよ!」



「社会福祉協議会の方々とともに、福祉実「オンラインで、デンソーの自動車工場の実践教室を開き、体験を通して学びました!」



「理科や算数、音楽などの学習において、プログラミング的思考を使い、学びを深めました!」

「届け!感謝の気持ち!医療従事者の方々へ!」(児童会活動)



この人文字は、クラスで一文字ずつ協力して作りました!



桜小学校の目の前には海南病院があります。日頃から検診やけがをしたときの対応など大変お世話になっています。児童会の発案で、新型コロナウイルス感染症対策の最前線で働いてみえるの方々へ感謝の思いを届けるために、前期と後期で2回にわたり、メッセージづくりに取り組みました。掲げたメッセージは一つですが、4年生以上の子どもたち一人一人がメッセージを考えました。前期は、メッセージを「人文字」にして表し、後期は「上り旗」に思いを込めました。全学級が作成に関わりました。子どもたちの感謝の思いが届き、海南病院の皆さんからもお礼のメッセージが桜小に届きました。温かい思いの交流となりました。